

竜南いのち守り隊

～高めよう 地域力～



平成27年8月25日 東北復興支援訪問 トマト農家収穫ボランティアにて



岡崎市立竜南中学校

竜南いのち守り隊

◎ 構成

岡崎市立竜南中学校 全教職員・生徒 計590名程度

中心は3年生・教職員 計200名程度

◎ 活動

総合的な学習の時間や特別活動・夏休みなどを利用し、主体的に活動に取り組むことができるようにする。

◎ 特徴

「つながり」を重視し、活動に地域を巻き込むことができるようにしたい。

担当教員に異動があっても、継続することで同じ教育効果を目指すことができる。

昨年度までの活動

- ◎ 2011年度 大河原町立金ヶ瀬中学校との
交流スタート
ユネスコスクールに認定
- ◎ 2012年度 訪問活動と共同授業スタート
防災フェスタの開催
- ◎ 2013年度 防災共同授業を継続
防災フェスタの継続開催
生徒による、かまどベンチの製作
- ◎ 2014年度 東北訪問の継続
防災安心してぬぐいの製作
防災フェスタの継続開催
ESD子ども会議参加



学びの「ここが一押し」

- ◎ 地域を大切にし、72時間生き延びるために私たちができることを考える。
- ◎ すべての人に優しい防災を考える。
- ◎ 衣食住に分かれて防災学習を進める。
- ◎ 学習のまとめを地域に広める。
- ◎ ボランティアを通して、地域との交流を深める
- ◎ 昨年までの防災学習軸に、今年度の新たな取り組みにつなげる。

→ **地域力を高め、
中学生を地域の防災リーダーに。**

はじめの一步



防災オリエンテーション

岡崎市役所防災危機管理課の方をお招きして
大地震発生の危険性をお聞きした。

→ 切実感の芽を育てる。

ベルマーク集計

ベルマーク係を立ち上げ、ベルマークの収集・集計

→ 被災した巨理町立荒浜中学校へ寄贈する準備。

地域との協働



◎ 地域交流施設での「防災イベント」出展

→ 地域に対して、学校での学びの様子を伝え、
発信していく。

◎ 学区総代会との協働

→ 「高めよう地域力」をテーマに掲げ、「つ
ながり」を感じられるような学校との連携を模
索

◎ PTAとの協働

→ 文化祭において、「ふれあい出展」を企画

地域ボランティア等への参加

- ◎ 地域防災訓練への参加
- ◎ 学区夏祭りボランティア
- ◎ 高年者センター夏祭りボランティア
- ◎ 老人介護施設夏祭りボランティア

(新たな取り組み)

- ◎ ふれあいコンサート
- ◎ 地域環状線清掃活動

→ **地域のボランティアに参加することで、自分も地域の一員であるという自覚が芽生える。また、地域に頼りにされていることを知る。**



東北訪問

- ◎ 継続して4年目になる。
- ◎ 交流のある「荒浜中学校」「トマト農家」を訪問
- ◎ 今年度は新たに閑上地区に行き、「震災を伝える会」の語り部から話を聞かせていただいた。
- ◎ 大きな活動とせず、「持続可能な活動」のレベルで行うことで、続けることができている。
- ◎ 子どもたちは、自主参加だが、36名定員のところ100名を超える希望者がいた。
- ◎ 学びを二学期に生かすだけでなく、活動自体に防災学習の価値をもたせるよう工夫。
- ◎ 昨年度まで交流のあった「金ヶ瀬中学校」とは体育館の改修工事のため交流せず。ただし、文化祭での作品交流を続け、「つながり」を継続させる。

①荒浜中学校訪問

- ◎ 津波被災後、同じ場所に再建。
- ◎ その理由や、防災上の工夫を見学させていただく
- ◎ 集めたベルマークを寄贈する
→ 「つながり」の継続



①荒浜中学校訪問



②津波被災農地復興支援ボランティア

- 岡崎市から派遣されている職員の方の話を聞く。
 - 「津波に襲われる映像を見て、何か力になりたいと思い志願した」という職員さんの話と、「岡崎消防署が一番に亘理町に到着し、支援を行った。だから派遣をお願いするなら岡崎市がいい」という渡里町側の話を聞いて、人の心の温かさと、心のつながりを感じることができた。
- トマト農家さんの収穫ボランティアを行う。
 - 被災農家さんの心の強さを感じることができた。





③ 閑上震災を伝える会 (新たな取り組み)

- 語り部から震災当時の様子を聞いた。
 - 中学生の取った行動の話から「中学生にできること」について考えた。
 - 「当時の中学生は、親を不安にさせないように親の前では泣かないように決めていたそうです。親たちの前では笑顔でいて、泣くのは仲間の前だけと決めていました。」という話から中学生が地域を思って動いていたことを知った。
- また、被災者の心の苦しみを感ずることができた。

③ 閉上震災を伝える会 (新たな取り組み)



③ 閉上震災を伝える会 (新たな取り組み)



③ 閑上震災を伝える会 (新たな取り組み)

時間が止まったままの時計→



東北復興支援訪問報告会 (学年)

- ◎ 「地域力」をテーマに報告会を行いました。



文化祭ブース発表（全校）

- ◎ 文化祭のブース発表で
1、2年生や学区の
小学生（4、5、6年）
に東北の様子を伝えま
した。



防災ゲストティーチャー

- ◎ 防災に関する専門家をお呼びして、それぞれの観点から話を聞かせていただいた。
- ゲストティーチャー一覧
- ① 岡崎東消防署（公助）
- ② 中部電力（公助）
- ③ 岡崎市上下水道局（公助）
- ④ 東邦ガス（公助）
- ⑤ 岡崎市市長公室防災危機管理課（公助）
- ⑥ あいち防災リーダー会（共助）
- ⑦ 男女共同参画班 すいか隊（自助・共助）

防災ゲストティーチャー



学区防災訓練（ボランティア）

- ◎毎年行われている学区の若松東防災訓練。例年は30名程度の参加であるが、今年度は運営としてボランティアの依頼が正式にあったので、生徒に募集をしたところ

100名の生徒が参加した。

学区防災訓練（ボランティア）



地域力（自助・共助）を意識したチャレンジへ

1 教員1チャレンジによるカテゴリー学習

- A りゅうぼうの知恵（災害時役立つものを作る）
- B りゅうぼうハート（独居老人見守り）
- C りゅうぼうの住処（避難所設営体験）
- D りゅうぼう食（非常食調理）
- E りゅうぼう袋（持ち出し袋検討）
- F りゅうぼうの命（救命講習）

今年度のまとめに

- 防災フェスタの開催
学びのまとめとして行う。
地域の方をお呼びし、私たちの
学習を幅広く周知していく

成果と課題

- 「切実感」を高めることが、「課題意識の高揚」には不可欠であり、「課題意識の高揚」を持続させるには、「単元を貫く課題」の設定が不可欠であることがわかった。
- 「人」、「コト」、「モノ」に出会うことで、自分の言葉に責任感と自信が湧き、この思いと、「地域を大切に作る心」が行動化へと大きく前進させつものになることが分かった。
- 防災の担当教員が異動しても、「竜南防災カリキュラム」を行うことで、同じような教育効果を得られることが分かった。

成果と課題

- ボランティアの感想から
→ ボランティアを行うことで、防災リーダーとしての自覚が芽生えたのではないかと考える。

たりしたときの喜び。ボランティア活動では、学校だけでなく、地域に出る行うことも多いので、普段私たちが気づかないところで地域の方に支えられていること。もちろん、防災の知識も増え、防災への意識も高まりました。ボランティア活動は直接的なことも、遠いところのためにあったり、地域をより身近にしつづけるのと同じと分かりました。今は学校が主催や募集をしているけど、これからこういうことが減っていくと思ってる。しかし私は今のことを志すからこれからも積極的にボランティア活動に参加したいです。

33

ご指導・ご支援
よろしく申し上げます。